

平成 30 年度
横浜市立高等学校及び併設型中学校

第三者評価結果

横浜市教育委員会

< 目 次 >

I 「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価	1
II 平成 30 年度第三者評価について	2
1 実施概要	
2 評価者及び訪問調査校	
III 訪問調査校の評価	3
1 桜丘高校	4
2 金沢高校	11

I 「横浜市立高等学校及び併設型中学校」の学校評価

市立高校及び併設型中学校は、学校評価の基本である全教職員による自己評価と保護者や地域、その他学校関係者等による学校関係者評価を行うとともに、年間2～4校に対し教育活動その他の学校運営について外部の専門家等による第三者評価を行います。

市立高校及び併設型中学校の学校評価は、次の手順で実施します。

1 自己評価

各学校は、校内評価委員会を組織します。校内評価委員会は、教職員による学校評価、生徒による学校評価、授業評価、保護者及び地域による学校評価を組織的に行い、評価結果の分析により課題を明らかにするとともに、学校関係者評価の結果を踏まえ、重点課題の改善策を中心に「自己評価書」を作成します。

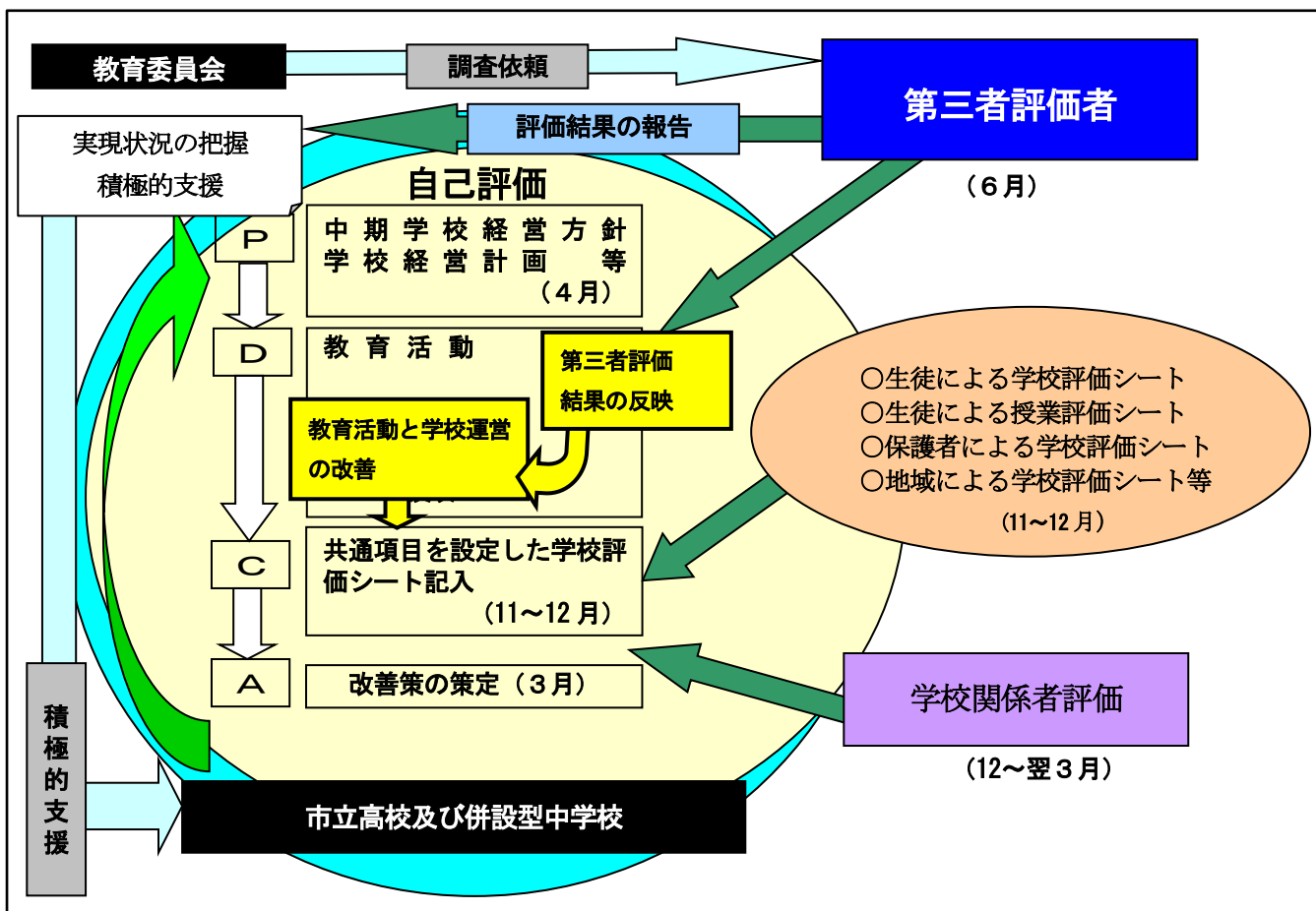
2 学校関係者評価

各学校は、学校関係者評価を実施するため、生徒の保護者や地域、その他学校関係者等によって構成される学校関係者評価委員会を組織します。学校関係者評価委員会は、各学校でまとめた評価の結果等を活用するとともに、授業や学校行事等の教育活動を観察し、「学校関係者評価書」を作成します。

3 第三者評価

教育委員会は、第三者評価を実施するため、学校運営に関する外部の専門家等による評価者（以下「第三者評価者」という。）に調査を依頼します。第三者評価者は、教育活動その他の学校運営について、年間2～4校の訪問調査を行います。調査結果は教育委員会が取りまとめます。

＜市立高校及び併設型中学校 学校評価の体系図＞



II 平成 30 年度第三者評価について

1 実施概要

(1) 実施方法

- ① 1校につき3名の評価者が訪問します。
- ② 評価者には事前に平成29年度「自己評価書」、学校評価アンケート集計結果（教職員、生徒、保護者、地域）、学校関係者評価書及び平成30年度「学校経営計画」を渡します。
- ③ 評価者は、平成29年度「自己評価書」「学校関係者評価書」及び平成30年度「学校経営計画」について主に重点取組項目を中心に校長から説明を受けた後、授業参観、施設・設備の観察、教職員（校長・副校長・教務主任等）及び在校生からのヒアリング等を通して評価します。
- ④ 教育委員会は、評価者からの評価と講評をとりまとめ、第三者評価結果を作成し、公表します。

(2) 訪問調査校及び日程

訪問調査校	日程	前回実施年度
横浜市立桜丘高等学校	6月20日（水）	平成27年度
横浜市立金沢高等学校	6月25日（月）	平成27年度

(3) 活用

- ア 学校は、評価結果を教育活動及び学校運営の改善に反映させます。
- イ 教育委員会は、各学校の教育環境の改善に向けた必要な措置などの施策に生かします。

2 評価者及び訪問調査校（五十音順）

訪問調査校	評価者氏名	所属等
桜丘高校	岩谷 伸一	学校法人 岩谷学園 学園長
	菅野 陽子	横浜市PTA連絡協議会 会計
	小松 郁夫	国立教育政策研究所 名誉所員
金沢高校	植田 みどり	国立教育政策研究所 総括研究官
	高橋 良裕	横浜市立原中学校 校長
	七海 雷児	横浜市PTA連絡協議会 副会長

※所属等は調査時のものです。

Ⅲ 訪問調査校の評価



桜丘高校の概要

創 立：大正 15 年
住 所：横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘 2-15- 1
課 程 等：全日制の課程 普通科
クラス数：24 クラス
生 徒 数：951 名（平成 30 年 4 月 1 日現在）
学 校 長：中島 久男



金沢高校の概要

創 立：昭和 26 年
住 所：横浜市金沢区瀬戸 22- 1
課 程 等：全日制の課程 普通科
クラス数：24 クラス
生 徒 数：954 名（平成 30 年 4 月 1 日現在）
学 校 長：高木 俊彦

横浜市立桜丘高等学校

(1) 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない

【グローバル人材の育成】

➤ 「次世代を担うグローバル人材の育成」に関しては、教員による英語関係授業の創意工夫、民間の英会話スクールとの連携（桜チャレンジ）、GTEC¹や英検へのチャレンジ、ドイツフランクフルト市との海外姉妹校提携、海外大学への進学等、さまざまな試みを実践し着々と実績をあげている。

➤ 今、高等学校教育で求められている「次世代を担うグローバル人材」とは、語学力や国際交流、難関大学への合格者の増加だけで終わるものとは思えない。そもそも、「次世代」とか「ネクストソサエティ」などといわれている内容は、これまでの学力観の延長では対応できないような主体的、創造的な人材をイメージしているのであり、学校教育全体を通して、教員側で強い使命感や危機意識を持たない限り、国際競争や未来社会からの挑戦にこたえきれないのではないかと考える。その点で、本校への期待が高い分、まだまだ本校の実践では、十分とは言えないと評価する。

【特色ある高校づくり】

➤ 進学指導重点校としてさまざまな取組や工夫がなされており、生徒自身が意欲的に学習に取り組み、主体的にキャリア形成を目指しているようだ。保護者からも信頼されている。

➤ 教育委員会からの期待を、改革のさらなるエンジンとして取り込んで、教職員が組織的に新たな使命を達成しようとしている。継続的に研修を積み、その成果を日々の授業実践などに取り組んでいる様子が、ミドルリーダーを中心として組織的になされていることもうかがえて、高く評価できる。

➤ 「特色ある高校づくり」では、進学指導重点校として、生徒個々の学力把握、進路相談を通して、最終目標を大学受験ではなく将来の生徒の進路に設定して進路指導を行っている。

¹ GTEC… (株) ベネッセコーポレーションのスコア型英語検定。桜丘高校では4技能型検定を実施している。

【生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実】

➤ 英語力の向上、国際交流の推進、海外留学や海外大学への進学実績などは、着実に進化しており、成果も上がってきていると評価できる。生徒たちからも、一人ひとりを大切にし、個に応じた学習指導、生徒指導がなされているという信頼を得ている。

➤ 『敬愛信』『文武両道』の目標のもと、学習面だけでなく、部活動や学校行事、地域での活動など、生徒自身が自分で活躍できる場所を発見できる機会を多数設けており、生徒たちからも、一人ひとりを大切にし、個に応じた学習指導、生徒指導がなされているという信頼を得ている。

➤ Classi²(クラッシー)やさくら手帳³等を導入し、生徒一人ひとりのポートフォリオを作成することで将来に向けた学びの継続性を重視している。授業においても双方向の授業を教員が意識し、アクティブラーニングを推進しており、充実した教育環境がつけられている。

(2) 教育活動の状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
<教育課程> 学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか	A	A	A	中期学校経営方針に示された取組が計画を大幅に上回って進んでいる
	B	B	B	中期学校経営方針に示された取組が概ね進捗している
	C	C	C	中期学校経営方針に示された取組があまり行われていない
<教科指導> 生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
	B	B	B	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
	C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない
<進路指導> 進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
	B	B	B	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
	C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

【教育課程】

➤ 市立高校としてのミッションを十分に踏まえ、市民や教育委員会などからの期待に応えようとしている様子は、十分にうかがえた。また、文部科学省や大学側での入学者選抜制度の改革について、その方向性などをよく吟味して、本校の授業改善に生かそうとする先進的な意識の高さなどは、評価できる。しかし、求められている水準や改革の方向性を具体的に先取りし、生徒や保護者への説明と理解などを得るところまでは、まだ少し課題があり、日々の授業でそれに対応するところまでは到達できて

² Classi… (株) ベネッセコーポレーションとソフトバンク (株) が共同開発した学習支援ツール。ポートフォリオ機能が充実している。スマートフォン、タブレットやパソコンなどの端末から生徒自身が入力する。今年度の1年生から導入。

³ さくら手帳…桜丘高校オリジナルの手帳。生徒が全員所持し、スケジュール管理や自身の学習状況を記録している。昨年の1年生から導入。

いない。

➤ 二年時までの授業課程が、センター試験対応型となっていて、幅広い進路を選択できるようになっている。また、生徒自身が「大学受験は通過点であり、その先の学びに役に立つ」ことを理解して学習していることが素晴らしい。

【教科指導】

➤ アクティブラーニングを積極的に取り入れ、生徒が能動的に学ぶ授業・興味関心を持って臨む授業が行われていた。学習室の充実や、SDC⁴（数学科の放課後補習）の実施など、学びたい生徒に、誠実に対応している。

➤ 授業改善に熱心な教員の取組が、まだまだ周囲の教員から認知や評価がされておらず、波及力という点で、物足りなさを感じる。高等学校での伝統的な授業スタイルは、最近の大学教育の改革、小中学校での主体的・対話的で深い学びへのチャレンジと比較すると、旧態依然とした側面がまだ色濃く残っており、「大学入試があるから」という言い訳は、もはや一刻の猶予も許されないのではないかと考える。

➤ アクティブラーニングを取り入れ、生徒と教員との双方向授業の実現を図っている。授業見学でも、各科目で教育方法や提示する教材に工夫がみられた。しかし、授業評価から多くの科目で生徒の学習意欲が低いという数値が出てきている。生徒の学習意欲をかき立てる教育方法をもっと研究し実践してほしい。できれば生徒が事前学習をしてくるような形ができてきたら良いと思う。

【進路指導】

➤ 進路指導に関しては、生徒個々人の適性或進路を考慮しつつ、進路データの蓄積や工夫などを重ねており、生徒からの信頼や評価も高いものがあると感じた。

➤ 「進路指導」では、進路の中心となる大学受験について、①大学や予備校との連携により大学学部・学科の内容や入試等の把握に努め、生徒の進路への適合性を確認するようにしている。②保護者・生徒への大学受験への説明を徹底し、理解度を深めるようにしている。③国公立大学を中心に指導することで私立大学受験にも対応できるようにしているが、地方の国公立大学受験が増えていると好ましい状況である等、説明を聞くと対応は優れている。しかし、生徒達が自らもう一段高いレベルの目標をもち、もっと努力して目標を達成できるようになる環境をこの学校が作ることで、生徒の能力が一段と引き出され、リーダーシップがとれる人材が育成されるのではないかと考える。

➤ 保護者にとって、年に複数回、保護者向けの進路説明会が開催されることは有り難い。新しい大学入試スタイルに対応するべく、さくら手帳などの具体的なサポートがすでに導入されていた。

⁴ SDC…数学大好きクラブ。進路指導部の呼び掛けにより数学科の教員が数学を苦手とする生徒のために放課後補習を行っている。

(3) 学校経営の状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
＜教育目標等の設定・実施＞				
教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	A	A	A	教育目標が生徒・保護者に理解され、目標達成に向けた効果的な取組による成果が顕著に現れている
	B	B	B	学校は生徒・保護者に教育目標を周知し、教育目標の見直しや改善に意欲的に取り組んでいる
	C	C	C	目標達成に向けた取組があまり行われず、教育目標が生徒・保護者にあまり浸透していない
＜組織運営及び教職員研修＞				
教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
	B	B	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
	C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない
＜保護者・地域等との連携協力＞				
学校から保護者及び地域へ教育活動についての情報提供を行う協力体制があるか	A	A	A	保護者及び地域には常に教育活動の情報提供が行われ、円滑な協力関係が築かれている
	B	B	B	保護者及び地域に教育活動についての理解が得られ、連携協力して学校が運営されている
	C	C	C	保護者及び地域に教育活動について情報提供があまり行われず、連携に大きな課題がある

【教育目標等の設定・実施】

➤ 学校改革に組織的に取り組んでいる様子が、よく感じ取られた。特にミドルリーダーの育成や活用が効果的に実践されており、人材育成という点で、着実な成果を上げているものと評価できる。

➤ 生徒会の生徒達への質問で、この学校へ入学して良かったか、この学校で改善されたことは何かと尋ねたが、「この学校に入学してとても良かった」、「入学して学習習慣が身についた」、「長期的な視野で学習を考えることができるようになった」、「生徒主体でさまざまなことを進めていくことができる」、等を挙げていた。このような回答が出てくる背景には、教育目標の設定はもとより、教員一人ひとりの取組が、優れているからと考えられる。

【組織運営及び教職員研修】

➤ 研修体制が組織的に構築されており、研修計画と実施も着実な成果を上げているのではないかがえた。今後の課題は、その成果が、日常の授業改善や学級経営、進路指導などにどのように的確に反映され、しかも、成果をはっきりと「見える化」できるかにかかっている。

➤ 高等学校教員の場合は、校内での研修の充実だけでなく、校外、特に大学レベルでの研修や研究にまで挑戦する教員がさらに増えることを期待したい。

➤ 教員が授業改善のため、アクティブラーニングに取り組み、教材を工夫し、努力している。また、お互いに授業を見学し、意見交換を重ね授業改善に取り組んでいることから、今後の授業アンケートの各教科の結果に反映されてくることと思うので、もう一步努力を重ねてほしい。

➤ ICTを活用し、教職員の業務軽減に繋げている。また進学校にもかかわらず複数の実績ある部活を持っているということなので、顧問の負担を心配していたが、学校としての部活動実施のルールが明確化されていてよい。

【保護者・地域等との連携協力】

- 学年主任がPTA委員会を担当するなど、学校をサポートしたい保護者の気持ちに十分に伝えてく
ださっていると感じた。
- 保護者の理解と協力は、他の学校の模範となるような活動も少なくなく、ますます活発になってき
ているように感じた。保護者や地域からの協力的なエネルギー、積極的な力を学校改革の原動力として、
さらに活用されることを期待したい。
- PTA会長が第三者委員への説明に来られ、保護者全員が保護者会に入会し、学校の教育支援をし
ているとのことであった。保護者と教員との間に協力関係・信頼関係が醸成されているのは素晴らしい
ことである。
- 地域との関係では、①社会貢献DAYの清掃活動、②学園通りコンサート、③がやっこレスキュー
隊⁵での消防・中学校等との連携、④桜高Weekでの地域の方達への部活紹介など、さまざまな活動
を通して地域との交流が図られている。

（4）いじめへの対応について

- 学習サポート、教育相談なども充実しており、現状では、特に気になる課題は感じられなかった。
しかし、高校生の時期の心身の発達や不安は、常に揺れ動いており、特に、変化の激しい社会の影響も
強く受けている。SNSやその他の情報環境の変化を常に注視して、教職員による指導・助言だけでな
く、生徒自身に主体的、自律的に危機管理と危機対応できるよう、さまざまな教育活動を通じて、啓発
をし、保護者との協力関係も深めていくことが重要と考える。
- いじめに関しては、①平成26年にいじめ防止基本方針を定め、HP掲載、②教職員の意識を高め
るための研修会の開催、③各年の主任が委員に就任するいじめ防止委員会を設置し、素早く対応できる
体制を構築、等と態勢は整っているようである。
- 本校を拝見していると、いじめとは無縁な環境にあるように思えるが、いじめはどんな環境でも起
こる可能性があるため、今後も気を引き締め、起こってしまった時は早期に対応し、問題解決をしてほ
しい。
- 生徒用の学校評価シートの結果によると、学校はいじめを許さないという環境づくりがすでにされ
ている、と推察できる。だが、人が日常的に集まるところに必ずいじめは発生するものなので、いじめ
が（それがどんなに小さなものでも）認められた時の学校としての対応方法が具体的に表示されてい
ると良いと感じた。

⁵ がやっこレスキュー隊…平成19年、保土ヶ谷区役所、保土ヶ谷消防署・消防団、地域防災拠点、学校が協
力して発足。当初は中学校4校の参加であったが、年々拡大。現在桜丘高校では2年生全員がこの研修に参
加している。

(5) 施設・設備について

➤ さまざまな施設や設備を丁寧に管理し、安全で安心をして学校生活を送れるように、いろいろな部署で配慮している様子がうかがえた。なお、施設設備の補修や改善などは、関係部署と緊密な連携をして、それぞれの現場での声に耳を傾け、教育活動中心、生徒の活動中心、完全優先で、引き続き油断をしないで管理をしていって欲しいと感じる。予算執行を伴うことなので、とりわけ計画的な管理が望まれる。

➤ 建物の老朽化が目につく。予算もあることなので改修等は計画を立て速やかに対応をしていく必要がある。またICTの活用は学校教育現場で不可欠になっている。学習支援システムのクラッシーだけでなく、グループウェアの活用、Wi-Fi環境整備等、できるだけ早く整備し、教育や教務事務等に活用すべきである。さらに生徒が将来生きる社会を考えると、AIや3Dプリンター等、仕事や生活を左右するであろう最先端の科学技術に触れられ、活用できる環境を教育現場に整備することが大切である。

➤ 校舎の耐震は問題ないとのことだったが、教室内の天井近くまである古い木枠のガラス窓は、とても危険である。早急にアルミサッシ+安全ガラスに変えて欲しい。全体的に設備が古く、廊下のめくれ、雨漏り、壁のひび等、改善が必要。そういった環境の中でも、黒板や水回り、廊下の座談スペースは明るく清潔に保たれていた。

(6) 総合所見

➤ 全体として、市民や教育委員会からの期待に十分に答えるような教育活動と学校経営などがなされていると感じた。特に、生徒自身の在学していることに対する満足度は高く、実績も着実に上がっている。管理職の経営理念、経営方針、人材育成なども明確でかつ着実に成果を上げてきているものと判断できる。それだけに、これに満足せず、さらなる高みを目指して経営努力と授業改善を進めてほしいと、強い期待を持つ。その実現のためには、学校経営方針や評価の手法に関して、抽象的な表記をできるだけなくし、具体性をもった目標設定や計画を策定してほしい。13の取組分野の記述も、抽象的な表現が多く、このままでは、取組の成果などについて、どの程度達成されたか、といった点での具体的、明示的な評価ができない心配がある。学校評価で重要なのは、「説明責任」Accountabilityであり、＜アカウント＞できること、すなわち、できるだけ数値化できるものは数値化し、最初の計画や目標設定と比較して、何が、どこまで実現できているのか、次の課題は、何で、どのレベルからスタートすべきかなどを明確にしていくことと考える。その点で、まだまだ本校の評価の仕方には、「甘さ」の部分が見られるようで残念である。

➤ 面談した生徒からは、①自分の考え・基準をもって高校選択をしたこと、②本校に入学して良かったこと、③大学受験という目先の事ではなく、将来の自分を見据え長期的な視野をもって学習や活動に臨んでいる、等の考えを聞くことができ、生徒達のこの学校での成長を感じることができた。

➤ 学校としていくつかの素晴らしい取組がなされていて、評価は高いが、取組ひとつひとつが単独で

はなく、上位概念（市や学校の教育理念・方針・目標）のもとに位置づけがしっかりなされ、どの取組が教育でのどのような役割をしていくのかということをはっきりし、全員で全体像を共有化し、目標を実現していけると良い。

➤ 教員は授業や生徒や保護者への対応に多くの時間を割けるように、教員以外の事務スタッフ等を充実させたり、ICTの活用等により、業務マネジメントを充実させることで、学校業務の効率化や教育力向上を図ると良い。

➤ 校内で会った生徒の挨拶や身だしなみに、とても好感を持った。授業に対する姿勢も、男女の区別なく協力しあい、素直に指示に従っていてよかった。学校長のリーダーシップのもと、先生方の熱意が生徒に伝わり、生徒の学校生活の充実さが保護者に伝わり、保護者の感謝が学校支援に繋がるという、理想的な関係が築かれていると感じた。ほぼ全ての生徒がスマートフォンを所持しているとのことだったが、数名、授業中の机上にスマホを出している生徒が見られた。電子辞書のかわりなのかはわからないが、見えていれば触りたくなるものなので、ルールの再確認を。高等学校の役割は、生徒が自立する道の入り口へ歩き出させることだと考えるので、桜丘高校の多種多様な取組は、生徒の学習力・人間力をバランス良く育て高めることに大変有用であると感じた。

➤ 「教育課程」での取組で、全体のグランドデザインを作成しているとのことだが、教育の全体像を明らかにし、生徒・教職員・保護者・地域等、多くの人に教育の透明化を図ることや、それを全員で共有し、協力してより良い教育・学校の実現を図っていくことは大変素晴らしいことである。しかし、そのためには、グランドデザインが市や学校の理念・方針・目標（上位概念）を細部（教育等一つ一つの取組）にまでつながりをもってブレイクダウンされていなければならない。教職員みんなの知恵を集めてそれを作成し、見える化・共有化を図り、PDCAを回しながら改善に取り組み、目標とする教育を実現していくと良い。

横浜市立金沢高等学校

(1) 第2期横浜市教育振興基本計画の推進状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
「次代を担うグローバル人材の育成」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「特色ある高校づくり」のための新たな使命達成に向けた取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない
「生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実」のための取組を推進しているか	A	A	A	重点施策の取組が各校の目標以上に進んでいる
	B	B	B	重点施策の取組が各校の目標をほぼ達成している
	C	C	C	重点施策の取組があまり行われていない

【グローバル人材の育成】

➤ YGL（グローバル人材育成プログラム）で示された内容を各教科、科目の中に落とし込んで取り組み始め、Practical English やEYE（英語科の学校設定科目）、海外交流プログラムなど新たな取組が実施され始めていることは評価できる。しかし、まだ特定の活動に留まっており、各教科、科目の実際の授業における変容等は十分とは言えない状況である。全教員が、YGLの趣旨及び内容を共通理解した上で、実際の授業における教授活動を見直し実践すること、併せてその実践の成果を評価するPDCAサイクルを実施することを期待したい。

【特色ある高校づくり】

➤ 特進プログラムを全クラスで実施することにより、生徒の希望する進路実現を目指すと共に、大学だけでなくその後のキャリアを見据えたキャリア教育を実現するためにR-CAP⁶等を新たに導入するなど、特色ある高校づくりの実現のための取組が行われている点は評価できる。しかし、全クラスで実施することによる高大連携プログラムの実施コマ数の確保など課題も生じている。今後は課題を解決しながら、当初の目的を達成できるような条件整備を行うことを期待したい。また、R-CAPなどの新たな取組を効果的に教員が活用できるようにするための研修機会の確保や充実、さらにはその結果、生徒の意識がどのように変化したのかも含めて、効果検証を行いつつ、効果的な取組となることを期待したい。

➤ 進学指導重点校として、放課後や土日等にも学習できる場所（自習室）を確保し、主体的に学習に取り組む生徒をサポートしている点は評価に値する。一方で、休日、主に部活動で出勤している教員が中心となって自習室の管理に当たっているようだが、「教職員の働き方改革」に基づき、外部人材の活用も具体的に進めていってほしい。

➤ 進学指導重点校としてのさまざまな課題に、校長のリーダーシップのもと、教員が熱心に取り組んでいる。保護者からのアンケートでも進学指導重点校として、比較的高い評価を得ている。

⁶ R-CAP…リクルートが開発した自己分析・キャリア支援プログラム。

➤ サンディエゴの高校との取組も全校生徒に伝わるように内容を考えていけるとさらに特色ある高校づくりが期待できる。同様に横浜市立大学との関係性でも、さらなる特色づくりに発展していけるかと思うので、今後に期待したい。

【生徒一人ひとりの能力を最大限に伸ばす教育の充実】

➤ 生徒一人ひとりの能力に応じた取組では、到達度テストを含めた学習システムの導入をするなど、新たな取組が始まっていることは評価できる。今後は、自習スペースをさらに確保することや、部活動との両立を図るための時間確保など、生徒自身が自主的に学習し、それぞれの能力を最大限に伸ばすことができるような物理的、時間的な環境整備とさらなる教員の指導を期待したい。

➤ 各学年の授業ガイドが充実しており、学校全体で、教育に力をいれていることがよくわかる。また自習室の導入は生徒にはとても良い仕組みだと思うが、担当する教職員のローテーションなどは、働き方改革という上でも全教職員で考えていけるとよい。

(2) 教育活動の状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
<教育課程> 学校の実態、課程や学科の特色を十分考慮した教育課程の編成がなされているか	A	A	A	中期学校経営方針に示された取組が計画を大幅に上回って進んでいる
	B	B	B	中期学校経営方針に示された取組が概ね進捗している
	C	C	C	中期学校経営方針に示された取組があまり行われていない
<教科指導> 生徒の学力の実態を把握し、身に付けさせたい学力の定着を図るための適切な指導を行っているか。教員は授業力向上に努めているか	A	A	A	学校の目標達成に向け、教科指導が改善され、授業力が大幅に向上している
	B	B	B	学校の目標達成に向けた教科指導や授業力向上の取組が行われ、授業力が向上している
	C	C	C	複数の教科で教科指導の課題が指摘されているが、授業改善の取組があまり行われていない
<進路指導> 進路指導が綿密に計画され、生徒の希望進路を叶える取組が行われているか	A	A	A	どの生徒も進路の高い目標を設定し、自ら目標達成に向けた進路計画の立案や実践を行っている
	B	B	B	生徒は学校からの進路情報を十分に理解し、進路実現に向けて前向きに取り組んでいる
	C	C	C	進路指導に対して不安を訴える生徒が大勢いるにもかかわらず、進路指導の改善があまり行われていない

【教育課程】

➤ 基礎から発展まで用意した夏期講習や全クラスでの特進プログラムなど、生徒のニーズに合わせたさまざまな教育活動を展開し始めている点は評価できる。今後は新たな取組の成果を検証しながら、教育活動の定着と持続的な取組となるような基盤整備を行うことを期待したい。

➤ 学年別の授業ガイドも充実しており、保護者からも肯定的な数字が出ているところからも、教育課程の編成などは十分考慮され、取り組まれている。

【教科指導】

➤ 授業評価を活用しながら教科指導の改善に取り組んでおり、生徒の9割近くが肯定的な評価である点は評価できる。しかし、学年による差（学年進行で上昇していく）があるので、全学年で肯定的な評

価が得られるような指導体制や授業改善の充実を期待したい。

- 家庭学習の定着についてはまだ課題がある。部活動との両立などまだ課題となっている点もあるので、教員が共通理解を持ちながら、生徒の意向も踏まえた取組を実施することを期待したい。
- 2020年度から始まる「大学入学共通テスト」に向けて授業改善に取り組んでいると思うが、一問一答スタイルで基本的な知識（用語や事象）を確認していく授業がやや多いという印象を持った。授業の中で、習得した知識や技能を活用する場面をもっと増やす努力が必要である。
- ネット環境を整備し、ICTを活用した授業にも積極的に取り組んでほしい。

【進路指導】

- 進路指導については、R-CAPを新たに導入し、進路指導をキャリア教育の一環として捉えた指導の充実を目指している点は評価できる。今後は教員研修などを通じて、より教員自身が効果的にR-CAPを活用しながら指導の充実を図ることを期待したい。また生徒自身がキャリアを見据えた進路選択ができるような意識改革を促すような指導の充実を期待したい。
- 模擬試験の事後解説も行っており、好評との話であった。生徒の学習意欲を伸ばす工夫がされている。またキャリア教育ということでは、横浜市立大学の先生からの講演もあり、多様なニーズに合わせた教育課程が考えられている。
- 図書室なども自由に活用でき、各学校の過去問なども閲覧できるようにしているなど、進路に向けての自主学习もしやすい。また教職員とも話しやすい風土になっている部分で進路に向けての不安も払拭できるように思う。夏期講座も40講座 延べ数1,100名が参加ということで学習のよいフォローになっているようだ。

(3) 学校経営の状況

観点	評価1	評価2	評価3	評価規準
＜教育目標等の設定・実施＞ 教育目標が生徒や学校の実態を踏まえた内容であり、目標達成に向けて教職員は意欲的に取り組んでいるか	A	A	A	教育目標が生徒・保護者に理解され、目標達成に向けた効果的な取組による成果が顕著に現れている
	B	B	B	学校は生徒・保護者に教育目標を周知し、教育目標の見直しや改善に意欲的に取り組んでいる
	C	C	C	目標達成に向けた取組があまり行われず、教育目標が生徒・保護者にあまり浸透していない
＜組織運営及び教職員研修＞ 教職員が意欲的に業務に取り組める組織であるか。また、課題解決のための教職員研修が行われているか	A	A	A	情報共有が徹底され、様々な問題に対して迅速に対処している協力関係がある。また、学校は常に教職員の研鑽に努めている
	B	B	B	一人ひとりの教職員は意欲的に業務に取り組んでいる。また、様々な研修によって教職員の力量が向上している
	C	C	C	教職員組織の見直しが滞っている。また、教職員の力量向上のための研修があまり行われていない
＜危機管理＞ 防災計画・防犯計画は学校の実態を踏まえた計画であり、訓練が適切に行われているか	A	A	A	生徒は防災及び防犯に対する意識が高い。また、地理条件に合った訓練を行い、非常時には適切な行動が取れる
	B	B	B	生徒に避難経路を周知し、十分な訓練を行っている。また、防犯についても適切な訓練等の指導を行っている
	C	C	C	生徒に避難経路が周知されていない。また、防犯訓練等の指導があまり実施されていない

【教育目標等の設定・実施】

➤ 高大連携などの取組が一部の教員の取組という意識があり、学校全体の取組としての意識が低い点は課題である。校務分掌の見直しや、職員会議での意見交換の場の設定など、学校全体で取り組むための意識改革に着手し始めている点は評価できる。今後は意識改革から学校全体としての取組として全教員が共通理解しながら活動していくという実効性あるものになる必要がある。そのためには校長を始めとした管理職のリーダーシップが重要である。校長のリーダーシップの発揮に期待したい。

➤ 自ら考えて行動する「自主自立」という高校の目標を生徒もしっかりと理解していた。学校として、教育目標などを生徒・保護者にも周知できている点だと思う。

【組織運営及び教職員研修】

➤ 授業改善については、OJT研修を推進している。また若手を中心とした取組が見られることは評価できる。しかし、OJT研修の成果が学校全体で十分に共有されていない点は課題である。このことについての課題認識は管理職にはあり、プロジェクト型にするなど今後の展望は持っているもので、その展望を教員の中で共有しながら、実効性ある取組が始まり、研修の成果が教員全体で共有され、授業改善が学校全体で組織的に行われることを期待したい。

➤ 分掌の代表や学年の代表など若手を中心に将来構想委員会を立ち上げ、求められる人物像や、育成すべき資質能力などを検討している点は評価できる。今後はここでの検討の成果をいかに今後の学校経営に活用しながら学校の更なる発展に結びつけていくのか、期待したい。そのためには、管理職のリーダーシップとマネジメントの能力が問われる。

➤ 分掌ごとに業務を見直し、改善を図っているところは評価できる。今後とも、人材育成とも絡めながら組織運営に取り組んでいてもらいたい。

【危機管理】

➤ 防災に対する生徒の意識が低いことは課題である。しかし一部の生徒には防災に対する知識が豊富な者もいるということなので、生徒が自発的に学び、当事者として防災や危機管理に取り組むような活動を期待したい。

➤ 近隣の学校や事業所等と連携して避難訓練を行うなど、実効性のある防災教育をもっと充実させるべきである。

➤ 避難経路の周知は徹底し、毎年秋に行うという避難訓練を4月、5月など早い時期に行って新入生にも伝えた方がよい。また避難経路図に関しては廊下など見えるところにもいくつかあった方がよいと思う。全体にどのように危機管理意識を浸透させるか、地域とどのように協力できるか、検討し、充実させていただきたい。

➤ 地盤も強く広大な敷地は、海に近い金沢区の地域住民にとって、一時の安全・安心を確保できる避難場所となる可能性が高い。生徒たちが、いざという時に適切な避難行動がとれ、自分の身はもちろん、状況によっては、高齢者や幼児の命を助けることができるよう、防災教育は早急に充実させる必要があると思う。

(4) いじめへの対応について

➤ 今年度からサポート委員会をいじめ防止委員会と改称し、学年の代表が集まって情報共有及び対応を検討し、迅速に対応できるようにしている。また生徒支援部が中心となり支援体制も整備している。保護者やスクールカウンセラーや関係機関とも連携しながら活動を行っている。情報共有という点ではさまざまな活動を行ってきたが、初期対応という点では不十分であった点があったということなのでそのことは課題である。今後はいじめ防止委員会の活動を実質的なものとし、情報共有から迅速な初期対応に結びつくような体制整備が必要である。

➤ SNSの影響といじめは切り離して考えることはできない。SNSに係るトラブルや犯罪被害・加害の状況を適宜発信し注意喚起しながら、禁止や抑制だけでなく、自分の心と素直に向き合う姿勢、自他を尊重する態度、相手の気持ちを想像する力をさらに育てていく必要がある。

➤ ホームルームで良好な人間関係が築けているか、という部分で、28年度、29年度とも保護者の評価も肯定的な数字となっている。また、生徒の方も高い評価になっているので、全体的には、友好的な風土ができていると思う。いじめについての設問でも比較的高い評価になっている。

(5) 施設・設備について

➤ グローバル人材育成プログラムやさまざまな新たな取組や授業改善を行っていく上でもICT環境の整備は必要不可欠である。しかし、アクセスポイントやWi-Fi環境がないなど、ICT環境は十分に整備されているとは言えない。今後は、学校が現在取り組んでいるさまざまな事項が十分に実施できるようなICT環境の整備が必要である。

➤ 校舎の耐震工事はできているとはいえ、老朽化や不具合が多いところが散見された。また教室のサイズが小さく、ロッカーなどの収納スペースが少ない点も学習環境としてはよいとは言えない。さらに、学年全体が集合できるだけの場所がなく、現在は食堂を活用しているが冷暖房設備も不十分で、集会を行う上では劣悪な環境と言える。生徒が安心して、快適に学べる学習環境を整備すると共に、教員が多様な教育活動を展開する上で必要な環境整備を行う必要がある。

➤ 一般的に段差が多く、老朽化が進んでいる箇所の多い施設である。高校生はもちろん利用者の安全のためにも早期の立て替えが必要である。

➤ 主体的な学習活動を進めるツールとして、もっとICT機器を扱えるように、ネット環境を改善・

整備する必要がある。

➤ 体育館の窓（中が暑い要因）、食堂にエアコンの設置（換気も含め）ができると良い。老朽化している箇所は行政主導で直していくことが望まれる。

（6）総合所見

➤ 前回の学校評価結果を踏まえ、YGLの新たな取組や特進プログラムの充実に向けたさまざまな活動が展開し始められているという点では評価したい。しかし、それがまだ一部の教員に留まっている点は今後の課題である。

➤ 校長は、学校の現状及び課題の認識は持っている。またその課題解決に向けた方向性は持っている。またそのことが一部の教員には理解され、共通認識はでき始めている。この点は本校の強みと言える。しかし、現状では一部の教員の取組として行われており、学校全体での組織的な取組になっていない点は本校の弱みと言える。今後は、校長が持つ課題認識や方向性を教員に伝えると共に、学校全体で議論して、学校全体で組織的に取り組むための戦略づくりと体制づくりに取り組んでいくことが必要である。そのためにも、校長のリーダーシップの発揮を期待したい。一部の教員が取り組んでいるという点をつなぎ、取組が線となり、面となり、学校全体で組織的に取り組んでいくことを期待したい。

➤ 生徒は学校に概ね満足しており、かつ学校への期待が高く、学校への誇りをもっていることがヒアリングからわかった。学校への誇りを持っている生徒の自主性や自発性をもっと活用し、生徒の意見を学校経営に反映させるような仕掛けがあると、もっと生徒が生き生きと学校生活を送ることができると思うので、生徒の意見を聞くだけではなく、学校経営にどう反映したのか（あるいは反映できないのか。その場合は理由をきちんと説明する）をきちんと生徒に説明し、共に学校を創っていくという意識を全教員が持つことが重要である。

➤ 働き方改革の意味でも、教員の“善意”に支えられている部分に依存する体制は改善が必要である。例えば、自習室の管理などについては、早急な対応を期待したい。

➤ 伝統校でありながらも、時代のニーズに合わせ、進学指導重点校として発展しようという意欲を感じられる。自主自立の精神もしっかりと芽生え、文武両道のスタンスでしっかりと運営されている。また校長のリーダーシップの下、教職員を幾層にも分け、体制を組織化し、業務に当たることができるようにしている点が非常によい。高大連携の取組はさらに特色を出して、生徒にも保護者にも大きな財産になる取組だと知らせていけるとよい。また大学生とのかかわりなどの機会も作ることもできるとなるとよい。

➤ 校内の雰囲気でも明るい印象であり、学校をオープンにする風土だと思う。そういう意味でも、横浜市立大学、地域など外部と連携し、保護者と協力してより開かれた学校になっていくことを望む。



平成30年10月発行 横浜市教育委員会事務局指導部高校教育課
〒231-0017 横浜市中区港町1-1
電話 045-671-3272 FAX 045-640-1866